

京の川の自然の恵みを活かす協働活動について

1 協働活動方針

- 学識経験者、農林漁業関係団体、行政の協働（京の川の恵みを活かす会）により、自然環境に配慮した鴨川の改修・整備に活かせる知見を得ることを目標として、調査・研究活動等を行う。
- 京都市都心部（三条～四条）でのアユ釣りの復活と、鴨川産アユの川床料理等での利用拡大を目指す。

2 平成24年度の活動と成果

- 都心部への天然アユ遡上を目指し、区間で最大の落差を有する龍門堰（伏見区下鳥羽）及び都心部での障壁である四条大橋下流落差工に仮設魚道を設置し、遡上状況を調査。

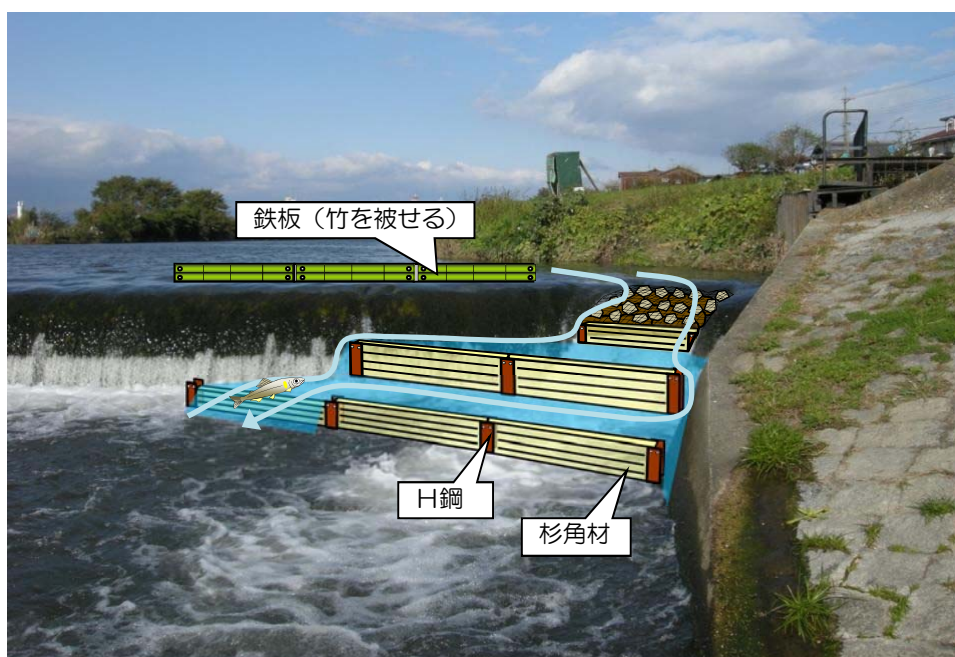
【成果】

- 6月下旬を中心に、約3万尾の天然アユが龍門堰の仮設魚道を通過し、少数は二条大橋から丸太町橋の間まで遡上していることを確認。
- 近隣の児童の仮設魚道見学への対応やシンポジウムの開催等、鴨川の自然の恵みについての啓発活動を実施。

3 平成25年度の活動計画（案）

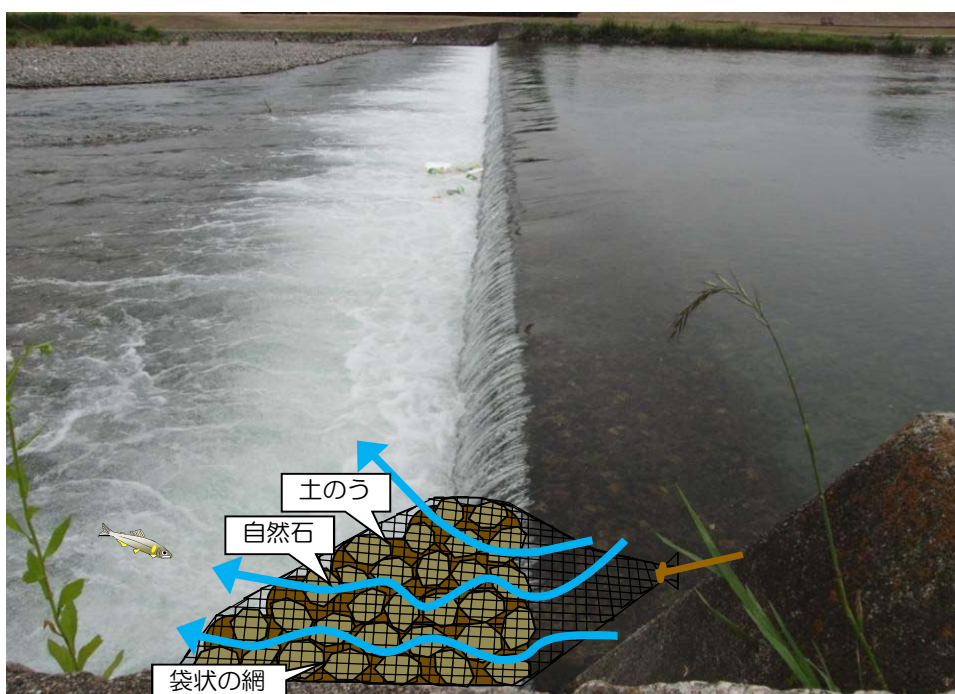
- 昨年度に引き続き龍門堰及び四条大橋下流落差工に仮設魚道を設置。
さらに、今井堰（伏見区深草）及び三条大橋下流の落差工に仮設魚道を新規設置し、天然アユの都心部までの遡上の促進効果を検証。
- 丸太町橋下流の落差工への仮設魚道設置を検討し、天然アユにとってより好適な生息環境への遡上を図る。
- 鴨川下流域にアユの産卵場所をつくり、効果を検証。
- 遡上アユの観察会や調査結果の報告会などを開催。

仮設魚道のイメージ図



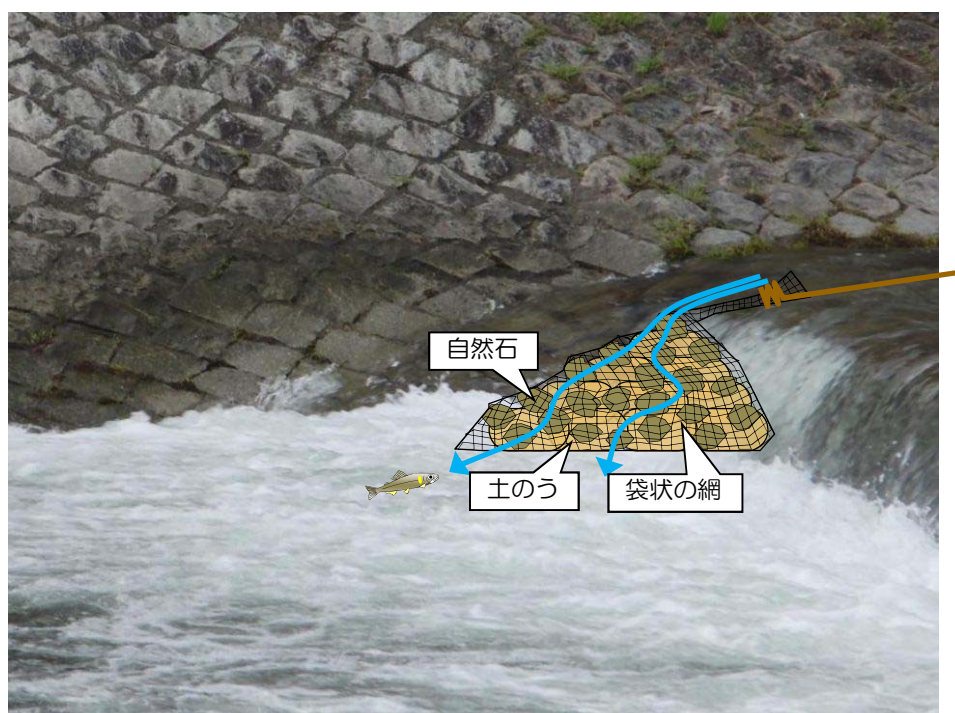
【継続】 龍門堰（伏見区下鳥羽）

昨年3万尾のアユが遡上



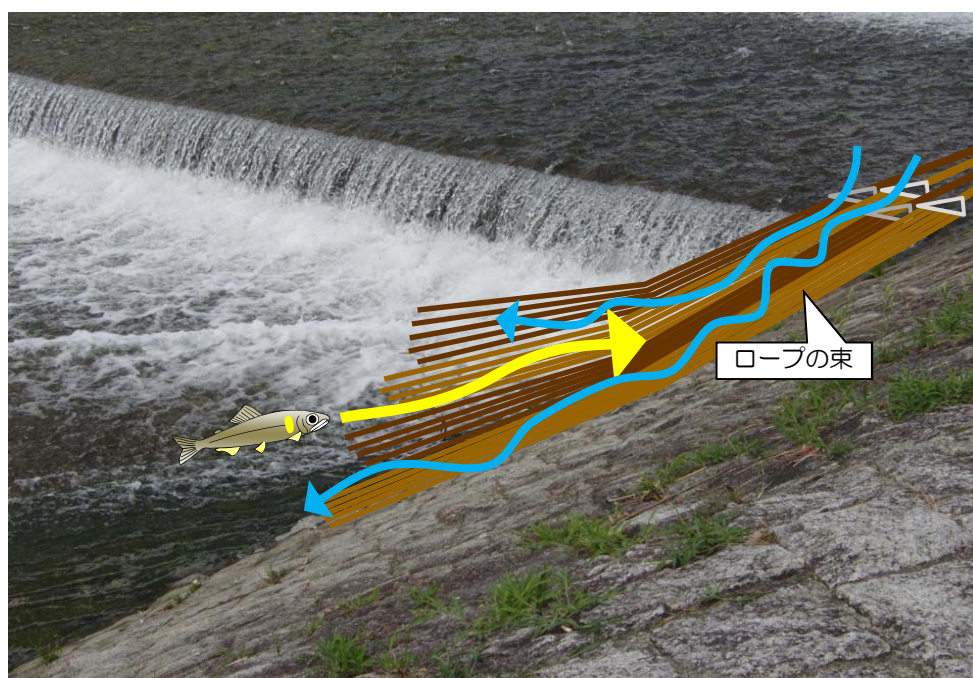
【新規】 今井堰（伏見区深草）

小型のアユも遡上できるように、土のうと自然石により緩やかな斜路を作る。



【継続】 四条大橋下流落差工

昨年は竹製の仮設魚道を設置したが、簡易な仮設魚道に変更



【新規】 三条大橋下流落差工

左岸側にロープを垂らし、アユが遡上できる斜路を作る